

## ECSS2017 & ISSP2017 参加報告

広域科学専攻 修士課程2年 女川亮司 (工藤研究室)

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2017年7月5～8日にかけて、エッセン(ドイツ)で開催された European College of Sports Science MetropolisRuhr 2017 (ECSS), および 7月10～14日に開催された International Society of Sports Psychology 14th World Congress Sevilla 2017 (ISSP) に参加した。前者はスポーツ科学全域を対象とした国際会議であり、後者はスポーツ心理学分野を対象とした国際会議であった。いずれの学会も数十カ国から参加者が集まる非常に大規模な学会であった。



両学会での Key note レクチャー。両学会ともに、多数の参加者による活発な議論が成された。(左図：ECSS, 右図：ISSP)

筆者は、ECSS では “Overestimation of success-rate is stronger in motor condition than in equivalent non-motor condition in two-choice decision task”, ISSP では “Searching strategy in performing response selection task under time constraints” という題目でポスター発表を行った。これらの研究は、運動場面でのヒト意思決定の特徴の解明を目指しており、数理モデルを用いたアプローチによって意思決定の最適性評価を定量的に行っている点が当該分野において独創的な点である。いずれの発表においても、十数名の方が訪れ、建設的な意見を多数頂いた。特に、筆者の研究のアプローチ法について多くの研究者から興味を持って頂けた点は、大変な励みとなった。また、他の参加者の発表も多数拝聴することができ、様々な分野の研究の動向を知ることができた。

発表者としての国際学会への参加は、筆者にとって今回が初めてであったため、研究発表の際には大変緊張したが、とても有意義な経験を得ることができた。このような機会を頂いたことに感謝し、今後の研究成果で報いることができるよう、より一層研究に励んでいきたい。